



## 前期終業式

前期を振り返って、本校の特徴である小集団での学び。2・3年生はもちろん、半年が過ぎて1年生も東長良中生らしくなってきました。そして、学年が上がるにつれて、学び合いの内容も深いものとなっていて、とても頼もしく見ていました。

行事においても仲間を大切に作る姿が多くありました。友情合宿の「同心協力」、立志合宿の「Over the top」、修学旅行の「一笑懸命」。小集団での活動を続けてきて良かったと思った一例を挙げます。9月の修学旅行。全員が楽しめるよういろいろな場面で、一人一人が仲間を意識する様子が伝わってきました。ホテルでの生活、食事や班別研修などです。例えば、一日目の夕食は、テーブルとテーブルの間や料理と料理の間が、比較的狭い会場でした。おなかがすいていて、おいしいものを目の前にして、混雑が予想されました。また、周りが見れずにぶつかったりして、プレートをあけてしまったり、友だちにぶつかってしまったりしたりはいないかと、心配しながらその様子を見ていました。しかし、心配は無用でした。みんな自分の事だけでなく、仲間も様子を気にかけながら、料理をとり、テーブルに戻って楽しく食事をしていました。まさに、協優敬恕の心が溢れる修学旅行でした。

また、新型コロナウイルスにより停滞していた学校行事も新しい形となって戻った前期でした。これまでの先輩たちが、学年を触れ合いたいと工夫を凝らしてきた、スポーツフェスタや文化祭。今年はスポーツフェスタの全校一斉開催、そして文化祭とあわせて一日開催となりました。スポーツフェスタで他学年を応援する姿、台風の目では学年を越えて一緒に取り組む姿。やってよかったと思う瞬間でした。

生徒会立会演説会では、その演説から東長良中の誇り、よさを感じました。また、全校が関わる縦割り活動に触れる演説も多々ありました。先生たちも改めて、その大切さに気が付きました。後期における課題をひとつお話します。

東長良中の皆さんには、是非とも今の殻を破って、ひと回り成長してほしいと思うことがあります。マスクについてです。自分や家族のための感染予防であれば、構いません。そうでなくて着用している人はいませんか。「自分で決めて、自分で行動することができるようになる」これは、4月の始業式で皆さんに話した内容です。人と同じでない、何となく恥ずかしい。本当は暑くてマスクはいらないんだけど。自分で本当に大切なことを判断して行動する力が必要だと思います。これから社会にできれば、なおさらです。そんなことでは、いじめを見たときに、勇気をもって行動できますか。同じ

ことではないでしょうか。

9月の修学旅行、3年生のほとんどの人たちがマスクを外していました。日頃の学校生活以上に、仲間との関係が深く、濃くなった3日間の生活。自分をさらけ出す、心を許せる。こんなに楽しい時間、マスクなしで、触れ合いたい。そんな気持ちからではないかと思っていました。目は口ほどにものをいうとも言われますが、人の気持ちや感情は、表情すべてから感じるものです。人生の中のわずか3年の中学校。卒業したら、一生合わなくなる人も少なくはありません。貴重な3年です。これからの学校生活でも、自分をさらけ出し、心を許せる。そんな仲間、学校。それは皆さんにとって、かけがえのない経験となります。何年後かに同窓会で会ったときに、顔の印象がなくて「誰だっけ？」なんて寂しくはないですか。後期におきて、秋休みの間に是非とも考えてみてください。

では、短い休みとなりますが、健康や事故に十分気をつけて過ごしてください。また始業式で皆さんに会えることを楽しみにしています。